



講演1

日本遺産を活用するために

丁野 朗

東洋大学大学院 国際観光学部 客員教授
(日本遺産審査委員)

講演2

「炭鉄港」と薩摩と

～そして世界遺産「明治日本の産業革命遺産」と

島津忠裕

株式会社島津興業 代表取締役社長

パネルディスカッション

「炭鉄港」は終わらない

吉岡宏高

NPO法人 炭鉱の記憶推進事業団 理事長

村田正望

一般社団法人 むろらん100年建造物保存活用会
代表理事

丁野 朗

島津忠裕



「炭鉄港」日本遺産認定記念フォーラム まちの記憶を明日へつなぐ



日時

2020年3月1日(日)
13:00～15:00

入場
無料

会場

むろらん広域センタービル3階(会議室)
室蘭市海岸町1-4-1



令和元年度文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

参加申込みの詳細は裏面をご覧ください



三菱合資会社室蘭出張所

開拓使が設置された1869年からわずか150年という短い期間で、5万人弱だった人口が100倍に増え、豊かな社会を達成した北海道。その歴史をひも解くと、空知(石炭)、室蘭(鉄鋼)、小樽(港湾)とそれらをつなぐ鉄道を舞台に繰り広げられた、産業革命の物語(ストーリー)が見えてきます。この『本邦国策を北海道に観よ!~北の産業革命「炭鉄港」~』のストーリーは、令和元年5月20日に、日本遺産に認定されました。

日本遺産は認定されて終わりではなく、ストーリーを発信し、活用することが求められています。「炭鉄港」の特徴の一つは、ストーリーを彩る資源の多くが残されていることです。室蘭には多くの鉄鋼・港湾・鉄道の関連資源が現存しています。構成文化財や今に伝わる食や行事、人々の「炭鉄港」の記憶。こうした有形無形の宝物を連携させて発信・活用し、まちづくりや観光振興などにどのようにつなげていくか。

そのためには「炭鉄港」のストーリーをさらに掘り起こし、もっと多様な魅力へと発展させていくとともに、子どもたちに「炭鉄港」のストーリーや室蘭の歴史を伝えていくことも大切です。自分が生まれ育ったまちへの愛着、この地域が日本の成長を支えていたという誇りは、いつかまちを離れても故郷を想う原動力になるはずです。

室蘭の記憶を明日へつなぐ活動の一つとして「炭鉄港」のフォーラムを開催いたします。ぜひ、会場に足をお運びください。

開催概要

日時 2020年3月1日(日) 13:00~15:00

会場 むろらん広域センタービル3階(会議室)

入場 無料

お申し込み

参加ご希望の方は下に必要事項をご記入の上、FAXかメールでお申し込みください。

FAXの場合 下記に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

室蘭会場

お名前:	参加人数:	名
お電話番号(固定・携帯どちらでも可):		

FAX送信先 **011-232-4918**(株式会社ノーザンクロス)

メールの場合 お名前、参加人数、お電話番号、「室蘭」会場への参加希望を明記して下記のアドレスへお送りください。

ida@northerncross.co.jp

*お申込みいただかなくてもご入場いただけますが、定員になった場合はご参加いただけない場合もあります